

今回と次回にわけて整骨院にくる確率の高い外傷患者について書きたいと思います。柔道整復師以外の方が読んででも全く面白くないのでご了解を。

以前こんなことがありました。

妹から、子供の肘が抜けたから何とかしてほしいと。私の妹は近くの保育園の保母をしておりますから、このような依頼もたまにあります。子供の肘が抜ける、これを肘内症というのですが、まあこんなものは簡単にはいります。ただ、肩の脱臼。これについて。学校で習った、ヒポクラテス法やコッヘル法なんかで入りませんよ。

私の学生時代お世話になった整骨院はわりと外傷患者も多く、いろいろと勉強させていただき（当時は無資格でしたけど、時効ですよ？）同級生の中でもいろいろな経験が早かったと思います。ほかに、院長がスキー場のパトロールの仕事を休日にいっていたため、自分も着いていき、施術の手伝いなどもさせていただきました。休日も院長と一緒に、当時は嫌だったけど、今ではいい経験でした。ちなみに、スキーよりスノボの怪我が多い。重症化もしやすいです。

次に高齢者の骨折。学生時代、「高齢者の転倒はまず、大腿骨頸部骨折を疑え！」と学校の授業で口酸っぱく言われていましたが、こうやって、高齢者を相手にしていると、大腿骨頸部の骨折は本当に多いです。

さて、大腿骨頸部の骨折も多いのですが、高齢者に多いのはやはり腰椎の圧迫骨折ではないでしょうか？80、90代の超高齢者になってくると、骨自体も、もろいのですが、受傷原因も本人がはっきりと覚えてない事が多々あります。あと、腕や足なんかで骨折と誤診しやすいのが、高齢者の場合、血液の流れをよくする薬（例えば、ワーファリンなど）を飲んでると非常に腫れます。ここで、骨折と誤診してしまうんですね。こういう薬をのんでいる方の怪我の場合、腫れているというより、プクッと餅が焼けて膨らんだ様になっています。

怪我の程度だけでなく、年齢そして飲んでる薬なども聞く事が大事。全部が全部、当てはまるわけではないと思いますが、授業では習わないかなと思い書いてみました。

次に、私の誤診、失敗談も。

例えば、腰痛。腰痛でもいろいろあります。急性期のものや慢性期のものまで。原因は腰の筋肉や神経、骨自体のものからいろいろありますが、私がおどろいた腰痛例。

まず、腰椎の疲労骨折。腰痛がなかなか治らず、整形に勧めた所、腰椎が疲労骨折していると。疲労骨折とは、マラソンランナーが走りすぎて、足のすねの骨なんか折れるとしか知らなかったんですが、腰もあるとは...。他には起き上がると腰が痛い。（これは、体の中に石ができていたんですね）、腸閉塞をおこしていた（腸閉塞については調べてみてください。腸閉塞は吐く場合もあります。その場合、嘔吐物の観察が大事ですね）腰だけでもいろいろあります。腰だけでなく他にも気をつけなければならない所は一杯あるのですが...。もう一つ。体の弱い所は体毛が多いです。腰に毛がある方なんかはほぼ100%腰痛持ちです。

介護の現場でもあります。転倒やぶつかるなど、尻餅をついた。あやしきは受診です。こんな事もありました。顎が外れたと。高齢者の顎関節は非常にゆるくなり稀にはずれるんです。ただこの方も入れてみたけど、はいた感じがしない。近くの整骨院の先生の所にも連れていったけど同じ（なんじゃそりゃ？と思いでしょうが、ここがこの業界のいい所です）結局最期、この方はオペをしました。（はずれないように、金具で顎を固定するのです）

はい。柔道整復師以外の方が読んでつまらない記事ですね。

